



# その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.158

a taste of Yassy

田中 康夫



たなかやすお ●'56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。小説『33年後のなんとなく、クリスタル』を11月25日に河出書房新社から上梓。[公式ブログ] <http://www.nippon-dream.com/>

卒業直前に停学処分を受け、内定していた金融機関への就職が白紙となつたヤスオは、煉瓦造りの時計台棟に設けられていた学校の図書館で、小説なる形態の文章に生まれて初めて取り組みます。1980年＝昭和55年のゴールデンウイーク明けに。

「文学少年」や「文学少女」が苦手だった彼は、一方で疑問を抱いていたのです。どうして「学園紛争」以降の若者を描いた物語が一向に登場しないのだろうと。その作品は『文藝賞』を受賞し、翌年

1月に上梓されると、100万部を超える売れ行きを記録します。が、「文学世界」では罵詈雑言でした。「頭の空っぽなマネキン人形がブランド物を一杯ぶら下げる青山通りを歩いているような空疎な内容」だと。442に上る註の一

番最後に記した出生率と高齢化率の将来予測に言及した「表現者」は1人も居ませんでした。

星霜を経て、ヤスオは山国で知

事をして、その後に国会議員を務めるも、今から2年前に敗退し、再び留年時と同じ時間の余裕を得ます。

17年振りに小説を取り組み、「33年後のなんとなく、クリスタル」を上梓する事となります。

待ち合わせ場所のハチ公前に現れぬ相手は、バックレたのか事故に巻き込まれたのか、33年前、連絡を取る術は有りませんでした。翌1982年10月開始の「笑っていいとも！」樂屋で、「自動車電話は便利ですね。昨日はバイクの横転現場に遭遇して思わず119番しました」と語るや、森田一義氏と横澤彥氏から、「ヤスオちゃん、自動車電話だなんて、黒塗りの後

埼玉県との境界に近い足立区浜の「スタミナ苑」をヤスオが訪れるようになって早や4半世紀。そこに流れる「時間」は昔も今も変わりません。外観も対応も肉質も。その後に登場した、抵抗する或いは優越する焼肉を供する時空も皆無ではないでしょう。

が、臓物を始めとするスタミナ苑の世界は引き続き焼肉入門者の前に屹立しているのです。

## 33年の「時間」を経て 再び始まった「物語」を上梓

今週の逸品



スタミナ苑のホルモン盛り合わせ

環七から僅か20m弱の距離にも拘らず隣の孤島を保つ鹿浜の地へ公共交通機関で到達するのは至難の業。HP記載「アクセス」を参照。主の豊島雅信氏は分け隔て無き対応が身上。故に僕を含めて待つ事の大切さを覚悟。タレでなく塩から始める焼肉の食べ方で人口に膾炙したのは豊島氏の功績。

<http://tanakayasuo.jp/> でも「33年後のなんとなく、クリスタル」に関してご覧頂けます。無論、上記の公式ブログでも。

illustration by Hajime Anzai

部座席で踏ん反り返つて鼻持ちならない重役と勘違いされた」と奢められたものです。

1987年にサービス開始された携帯電話の契約台数は今や人口よりも多くなりました。夜中に届いたLINEを未読の儘、登校した小学生が虐められる昨今。私達は便利で自由を楽しんでいるのか束縛と監視に悩んでいるのか、即答しかねる2014年の晩秋です。而して私達は、旧厚生省の「厚生白書」に記された予測数值を遙かに上回る、歴史上に前例無き超少子・超高齢社会ニッポンに生きています。

「33年前、あなたは何をしてましたか。」なかにし礼、壇蜜、福岡伸一、ロバート・キャンベルの各氏・各姫を始めとする10人が単行本の帯に寄せて下さった推薦文で期せずして、浅田彰、菊地成孔の両氏がマルセル・ブルーストを引き合いに「時間」こそが物語の主題だ、と述べています。

